

すまいる診之助 Ver 4.2.7

操作マニュアル

(株)堀池工務店一級建築士事務所

堀池 恒史

1. インストール・バージョンアップ

「すまいる診之助 Ver 4.2.7」は、特別なインストールは必要ありません。

事務局から入手した「配布用」フォルダを適当な場所に置きます。

「配布用」フォルダには下の 3 ファイルが在ります。

(パソコンの設定によっては、拡張子 (.exe) が非表示の場合があります。)



「すまいる診之助 2012.chm」は、ヘルプファイルです。

「すまいる診之助マニュアル V40.pdf」は、操作マニュアルです。

「すまいる診之助 V427_070111.exe」はすまいる診之助の実行ファイルです。

実際のファイル名は「すまいる診之助 V427_*****.exe」で、"*****"の部分は診断士番号になります。

("*****"の診断士専用です。)

すまいる診之助の起動は、「すまいる診之助 V427_*****.exe」を実行（開く）して下さい。

バージョンアップは ZIP ファイルをダウンロードして行います。ダウンロードした

「shinnosukeV427.zip」（427 はバージョン 4.2.7 を示します。）を適当な場所に置き、展開します。

展開で「shinnosukeV427」フォルダが作られ、下の 4 ファイルが入っています。



同じフォルダの中に、現在使われている「すまいる診之助 V4##_*****.exe」を入れます。

(V4##はバージョン 4.##になります。)

「すまいる診之助修正プログラム→V427.exe」を実行（開く）して下さい。

バージョン 4.2.7 の「すまいる診之助 V427_*****.exe」が出来ます。

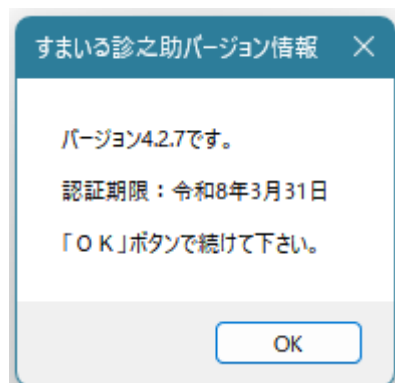
次のバージョンアップまではこちらを使ってください。

現バージョンの認証期間は半年で、半年毎にバージョンアップで認証期間を延長しています。

バージョン 4.2.7 の認証期限は平成 8 年 3 月 31 日です。

2. 起動・認証

「すまいる診之助修正プログラム→V427.exe」を実行（開く）すると、



バージョン情報が表示されます。

- ・バージョン No.

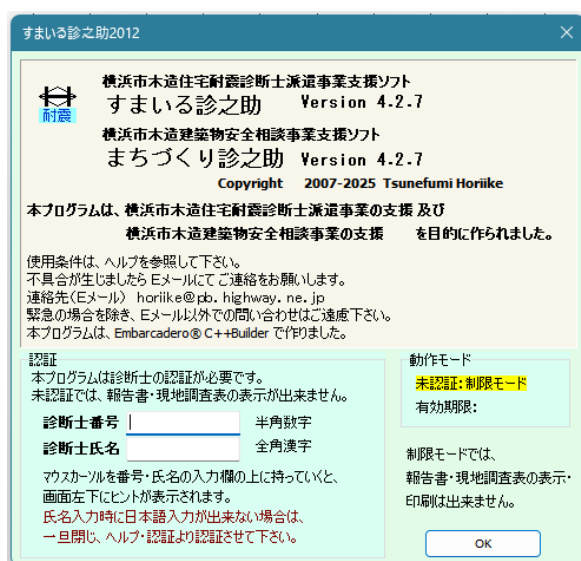
- ・認証期限

を確認します。

「すまいる診之助 Ver 4.2.7」は横浜市木造住宅耐震診断士の認証が必要です。

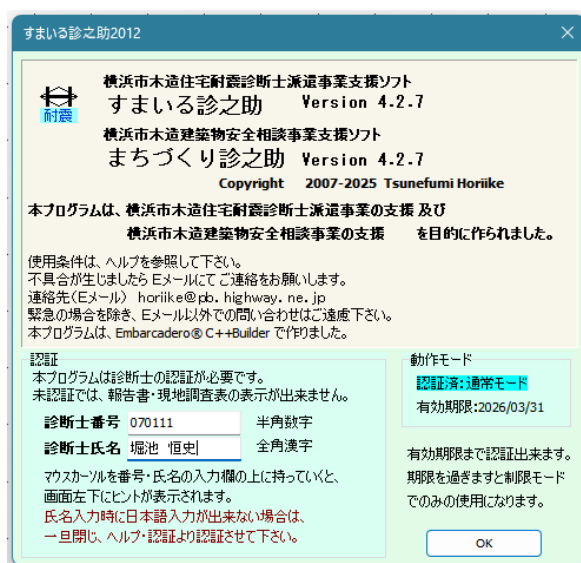
ソフトを起動すると、下記の認証画面が現れます。最初は”制限モード”になっています。

（認証させずに動かすことも出来ませんが、その場合には、報告書・現地調査表の表示・印刷が出来ません。）



診断士番号（半角数字）及び診断士氏名（全角漢字）を入力して下さい。診断士番号と診断士氏名の組み合わせにより判断し、OKであれば、認証され、”通常モード”になります。

「すまいる診之助 Ver.4.0」は、一人の診断士しか認証しませんので、別の診断士が作成したデータファイルを読み込みますと、制限モードに戻ります。その場合は、再度、認証して下さい。（データファイルに記録された診断士情報では認証出来ません。）



認証され、”通常モード”になりますと、制限が外れ、報告書・現地調査表の表示・印刷が可能となります。

認証には有効期限が設定されています。

有効期限が過ぎていると、認証されません。

有効期限内に新バージョンをご案内します。引き続きお使いの場合は、新バージョンに更新して下さい。

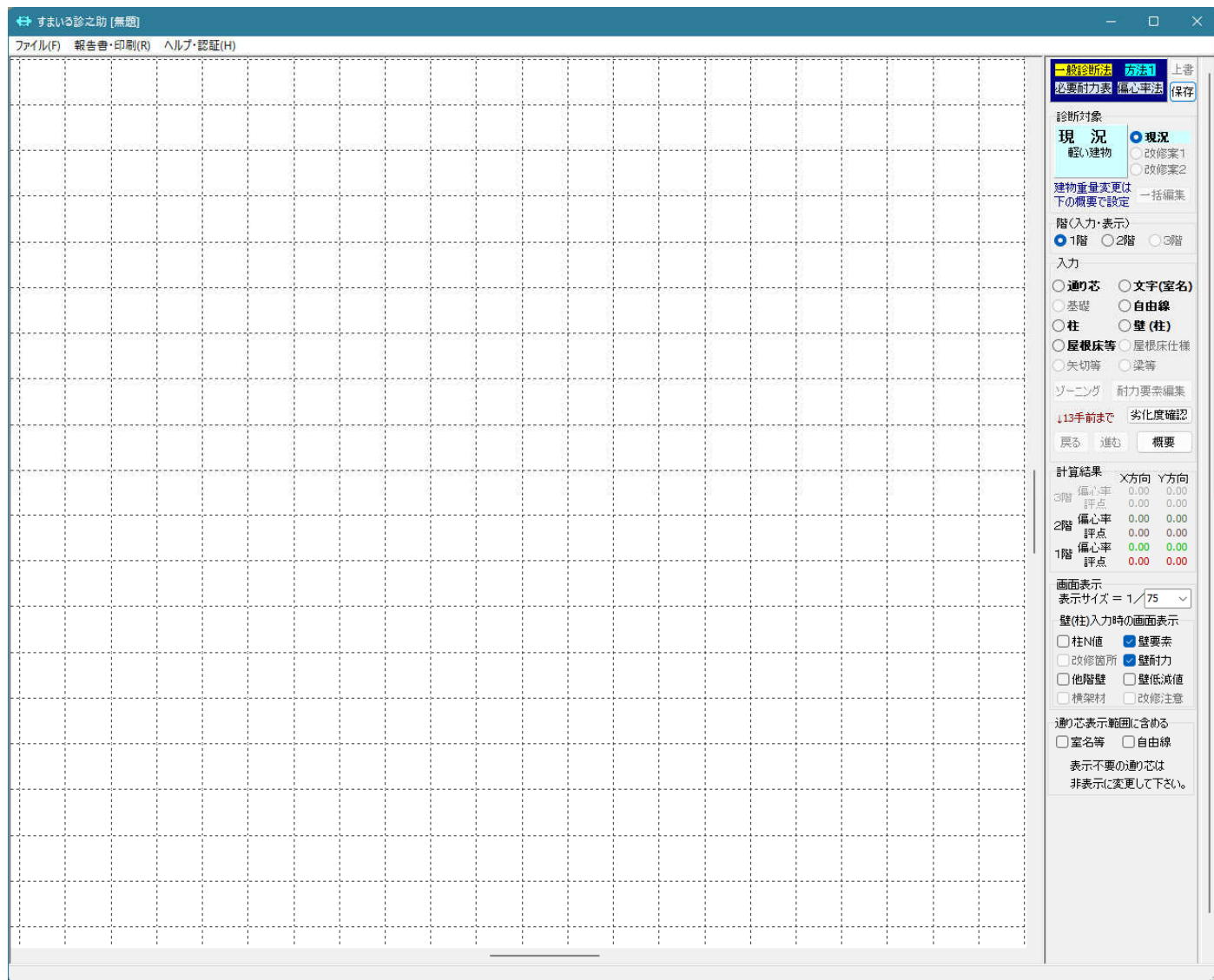
認証番号は半角数字で

診断士氏名は全角漢字で、姓と名は全角の空白で区切ります。

続いて、概要入力になります。概要入力を閉じると、データの入力にまります。

3. 画面の説明

認証が済みますと、データの入力になります。先に、画面の説明を行います。



画面は、一般的なウィンドウズのソフトと同様に、上部にタイトル・メインメニューがあります。

右側に操作パネルがあり、中央部が作業エリアです。

メインメニューは、【ファイル】・【報告書・印刷】・【ヘルプ・認証】 の3つです。

【ファイル】メニューは、

- ――― 【新規】 新規物件の入力
- ――― 【開く】 保存データの読込
- ――― 【保存】 入力データの保存
- ――― 【名前を付けて保存】 入力データの保存（データ名を変更する場合）
- ――― 【終了】 ソフトの終了

で、一般的なソフトに準じています。

注）【新規】において、計算以外のデータは初期化されません。

建物概要等のデータも初期化する場合は、ソフトを再起動して下さい。

【報告書・印刷】メニューで報告書が表示されます。

以下の「6. 報告書・計算書・現地調査表の表示・印刷」を参照して下さい。

【ヘルプ・認証】メニューは

- ――― 【ヘルプ】 ヘルプファイル「すまいる診之助 2012.chm」を表示します。
- ――― 【バージョン情報・認証】 起動時と同じ認証画面を表示します。ここで再認証が出来ます。

3-1 操作パネル

一般診断法 **方法1** 上書
必要耐力表 偏心率法 保存

診断対象
現況 ☒ 現況
軽い建物 ☐ 改修案1 ☐ 改修案2
建物重量変更は下の概要で設定 一括編集

階(入力・表示)
☒ 1階 ☐ 2階 ☐ 3階

入力
☐ 通り芯 ☐ 文字(室名)
☐ 基礎 ☐ 自由線
☐ 柱 ☐ 壁(柱)
☐ 屋根床等 ☐ 屋根床仕様
☐ 矢切等 ☐ 梁等

ゾーンング 耐力要素編集

↓13手前まで 劣化度確認

戻る 進む 概要

計算結果

		X方向	Y方向
3階	偏心率	0.00	0.00
	評点	0.00	0.00
2階	偏心率	0.00	0.00
	評点	0.00	0.00
1階	偏心率	0.00	0.00
	評点	0.00	0.00

画面表示
表示サイズ = 1/75

壁(柱)入力時の画面表示
☐ 柱N値 ☒ 壁要素
☐ 改修箇所 ☒ 壁耐力
☐ 他階壁 ☐ 壁低減値
☐ 横架材 ☐ 改修注意

通り芯表示範囲に含める
☐ 室名等 ☐ 自由線
 表示不要の通り芯は非表示に変更して下さい。

【動作モード】 一般診断法 方法1 必要耐力表 偏心率法 に限定しています。
診断対象も現況に限定されています。

改修案の作成や精密診断を行う場合は、「すまいる診太郎 2012」をお使い下さい。

【階（入力・表示）】

作業する時の対象にする階を選びます。（建物の階数ではありません。）

【入力】

入力する対象を選びます。基礎の個別入力が必要な場合は概要で設定して下さい。

【劣化度確認】

劣化入力を確認出来ます。劣化入力及び変更は概要で行います。

【概要】

調査概要の入力、所見の入力等を行う「調査概要パネル」が開きます。

以下の「3-2 調査概要」を参照して下さい。

【計算結果】

作業している階の偏心率・上部構造評点を逐次表示します。

作業階の表示は色が濃くなります。

【画面表示】

表示サイズ 作業し易い大きさに設定して下さい。

壁要素・壁耐力 壁の入力時に、既入力の壁の要素・倍率を表示します。

壁低減値 壁耐力を表示する際、基準耐力と低減後の耐力を切り替えます。
必要に応じて、チェックをして下さい。（計算には影響しません。）

【通り芯表示範囲に含める】

室名等・自由線 建物範囲の外に文字や線を加えた場合で印刷が切れる場合はチェック
して通り芯表示範囲を拡大して印刷範囲を広めます。

増えた通り芯が表示不要の時は通り芯を非表示に変更します。

3-2 調査概要

[ファイル]－[新規]・[開く]で入力を始める際は、最初に「調査概要」が開きます。

操作パネルの[入力]－[概要]でも開きます。

いつでも開いて訂正出来ます。

概要の入力項目は、現地調査表とほぼ同じです。

3枚の現地調査表（No.1、No.2、No.3）に記された内容を、調査概要の7ページ（No.1-1、No.1-2、No.2-1、No.2-2、No.2-3、No.3-1、No.3-2、）に入力してください。

現地調査表 No.1-1 には、診断依頼者、受付番号、建物概要等を入力します。

診断士番号・診断士氏名は認証で入力します。ここでは変更出来ません。

入力する場合は、[ヘルプ・認証]より認証画面を出して入力して下さい。

調査概要

現地調査表 No.1-1 No.1-2 No.2-1 No.2-2 No.2-3 No.3-1 No.3-2 所見(1) 所見(2)

対象建物・対象者
所在地
申請者(所有者)
連絡先

診断区分
木造住宅耐震診断士派遣事業の場合の区分(診断士の場合)
☒ 持家区分 ☐ 貸家・空室等区分
 木造建築物安全相談事業の場合の区分(調査員の場合)
☐ 持家区分 ☐ 貸家・空室等区分

建物概要
構造上複数棟ある場合
☒ 1棟 ☐ 複数棟 本データの棟名
 建物形態
☒ 1戸建ての住宅 ☐ 長屋 ☐ 共同住宅
 住宅部分の戸数 1 戸 ← 半角数字 多世帯住宅は1戸

新築
☐ 有 ☒ 無 増築がある場合は、「有」をチェックして下記を表示させます。

注) 緑の項目の入力は半角数字入力にも連動します。水色の項目の入力は計算条件設定に必要です。 OK キャンセル

増築 ☒ 有 ☐ 無 増築がある場合は、「有」をチェックして下記を表示させます。

増築等
 年 月 建築確認 年 月 第 号 不明 検査済証
 増築等
 年 月 建築確認 年 月 第 号 不明 検査済証
 増築等
 年 月 建築確認 年 月 第 号 不明 検査済証
 増築等
 年 月 建築確認 年 月 第 号 不明 検査済証

注) 緑の項目の入力は半角数字入力にも連動します。水色の項目の入力は計算条件設定に必要です。 OK キャンセル

調査概要

現地調査表 No.1-1 No.1-2 No.2-1 No.2-2 No.2-3 No.3-1 No.3-2 所見(1) 所見(2)

建物概要
診断対象の確認(補助金対象は別途確認要)
H.12年以降の増築面積
☒ 対象(無)又は、増築面積が現況の1/2以内) ☐ 対象外(1/2を超える)

震構造
☒ 対象(震構造でない) ☐ 対象(木造在来軸組構法でない部分有) ☐ 対象外(既構造)

建築確認以外の図面
☐ 有 ☒ 無(不明) 金融公庫設置 ☐ 有 ☒ 無(不明)

調査事項
現地調査方法 目視による 調査年月日 令和 年 月 日

図面照合調査
☐ 建築確認図面 ☐ 建築確認以外の図面 ☐ 無

調査箇所(調査不可は診断対象外となる場合あり)
☒ 全部屋・全戸調査済 ☐ 一部調査不可 調査不可場所:

目視調査状況
床下
☒ 目視可 ☐ 目視不可 目視箇所又は目視不可理由:
 1階天井裏(小屋裏)
☒ 目視可 ☐ 目視不可 目視箇所又は目視不可理由:
 2階天井裏(小屋裏)
☒ 目視可 ☐ 目視不可 目視箇所又は目視不可理由:
 壁(コンセントボックス等) 天井裏・小屋裏から目視した場合を含む
☒ 目視可 ☐ 目視不可 目視箇所又は目視不可理由:

敷地状況(地盤・地形)
地盤
☐ 良い ☒ 普通 横浜市の場合 状況
☐ 悪い(著しく軟弱(必要耐力X1.5) 対策 ☐ 表層の地盤改良 ☐ 杭基礎 ☐ 特別な対策なし・不明

地形
☐ 勾配地・急斜面(状況:) (対策)
☒ 平坦・普通 南側+3m、北側-2m等 ☐ コンクリート擁壁 ☐ 石積 ☐ 他・特別な対策を行っていない

注) 緑の項目の入力は半角数字入力にも連動します。水色の項目の入力は計算条件設定に必要です。 OK キャンセル

[診断区分] 診断区分で対象事業が変わります。

木造住宅耐震診断士派遣事業の場合は上段の区分、

木造建築物安全相談事業の場合は下段の区分を選びます。

構造上複数棟ある場合は、複数棟を選択し、各棟ごとにABCの順に棟名を付けて複数のデータを作成します。

住宅外用途がある場合は、店舗・事務所・他を選択し（複数選択出来ます。）他を選択したときは用途名を入力します。

建物形態を選択し、長屋・共同住宅の場合は住宅部分の戸数を入力します。

建物階数を選択しますが、3階建ての場合は対象外になりますので以降の入力は中止します。

現在の面積は、計算上の面積では無く、建築基準法の面積を入力します。（計算上の面積と異なる場合は、入力ミス等が無いかな、異なる理由を確認します。

新築欄に新築時のデータを入力します。（竣工時と確認時に矛盾が無いかなを確認します。）

増築がある場合は増築有を選択すると、下に増築欄が出ます。欄が不足する場合は、構造上の影響が大きいものや増築時期が新しいものを優先して入力します。

現地調査表 No.1-2 には、現地調査表 No.1 の残りの項目を入力します。

診断対象の確認で対象外を選択する場合は、以降の入力を中止します。

現地調査方法は「目視による」になります。

調査年月日は実際に調査を行った日を入力します。

参考にした図面の有無を選択します。

調査不可の部分が合った場合はその場所を入力します。

この場合、診断対象になるか否か横浜市に尋ねます。

目視調査の可否・場所・理由を入力します。（理由無く目視不可は認められません。）

地盤と地形の状況を入力します。

このとき、地盤を「悪い」とすると「著しく軟弱」も選択されたことになります。

調査概要

現地調査表 No.1-1 No.1-2 No.2-1 No.2-2 No.2-3 No.3-1 No.3-2 所見(1) 所見(2)

基礎 (ここは計算のための入力、劣化入力とは連動しません。)

形式
☐ 鉄筋コンクリート 判断根拠: ☐ 無筋コンクリート
☐ 玉石基礎 柱脚固定かつ基礎に堅固 ☐ 有 ☐ 無 ☐ その他

亀裂
☒ 無 ☐ 軽微なひび割れ ☐ 有 場所

☒ 基礎(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)の個別入力を行わない。 注) チェック無しの場合は個別基礎の入力が必要になります。 **基礎Ⅱ**

金物 柱脚 柱部 接合部種類 注) 目視不可の場合は不明です。 構架材と柱 筋か/端部
☐ 有 ☐ Ⅰ(ホールダウン金物等) ☐ Ⅱ(VP金物等) ☐ 有 ☐ 有
☒ 無 ☐ Ⅲ、Ⅳ(かすがい、短ばね、無) ☒ 不明 ☒ 無-不良 ☐ 有-不良
☐ 目視不可 ☐ 目視不可 ☐ 目視不可

床仕様(1階・2階 天井面)
 床材 ☐ Ⅰ構造用合板 ☒ Ⅱ火打ち+荒床 ☐ Ⅲ火打ちなし ☐ Ⅳ目視不可 ← 不明はⅢ 一辺4m以上の吹抜け ☐ 有 ☒ 無
☒ 床仕様(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)の個別入力を行わない。 注) チェック無しの場合は個別に床仕様の入力が必要になります。

屋根
 1階 2階 ← 1階と2階とも間違えない事。
 葺き材 x 土葺きの場合は『葺き材名+土葺き』を記入

劣化 ☒ 無 ☐ 有 場所 状況

※ 建築物の重さはNo.3-1で設定します。←忘れずに!!

樋・呼び樋 ☐ 美観色、さび、割れ、ずれ、欠落がある ☒ 無 縦樋 ☐ 美観色、さび、割れ、ずれ、欠落がある ☒ 無

注) 緑の項目の入力は劣化度入力にも連動します。水色の項目の入力は計算条件設定に必要です。 OK キャンセル

調査概要

現地調査表 No.1-1 No.1-2 No.2-1 No.2-2 No.2-3 No.3-1 No.3-2 所見(1) 所見(2)

外壁 仕様
 工法(下地) ☐ 不明
 仕上げ

仕様
 工法(下地) ☐ 不明
 仕上げ

劣化 ☒ 無 ☐ 有 場所 状況

露出した躯体
☐ 露出した躯体あり ☒ 露出した躯体なし 劣化 ☐ 水浸み痕、こけ、腐朽、剥落、損傷がある ☒ 無

バルコニー・外廊下等
☐ バルコニーあり (形態:)
☐ 外廊下等あり (形態:)
☒ バルコニー・外廊下等なし

手すり壁の劣化 ☐ 剥がれ、割れ、ずれ、シール切れ等がある ☒ 無

外部との接合部 ☐ 外壁面との接合部に亀裂、隙間、結露、シール切れがある ☒ 無

床排水の劣化 ☐ 壁面を伝わって流れている、または排水の仕様が無い ☒ 無

注) 緑の項目の入力は劣化度入力にも連動します。水色の項目の入力は計算条件設定に必要です。 OK キャンセル

調査概要

現地調査表 No.1-1 No.1-2 No.2-1 No.2-2 No.2-3 No.3-1 No.3-2 所見(1) 所見(2)

内壁(一般室)
 仕様
 工法(下地) ☐ 不明
 仕上げ

仕様
 工法(下地) ☐ 不明
 仕上げ

仕様
 工法(下地) ☐ 不明
 仕上げ

仕様
 工法(下地) ☐ 不明
 仕上げ

仕様
 工法(下地) ☐ 不明
 仕上げ

劣化 ☐ 有 (場所:) ☒ 無 (状況: 水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある)

内壁(浴室)
 浴室有無 ☐ 有 ☒ 無
 浴室がある場合は浴室有をチェックして仕様・劣化を表示させます。

注) 緑の項目の入力は劣化度入力にも連動します。水色の項目の入力は計算条件設定に必要です。 OK キャンセル

内壁(浴室)
 浴室有無 ☒ 有 ☐ 無 ユニタリ又はここで選択

仕様
 工法(下地) ☒ 不明
 仕上げ

仕様
 工法(下地) ☐ 不明
 仕上げ

劣化 ☒ 無 ☐ 有
 タイル壁: 目地の亀裂、タイルの割れがある
 タイル以外: 水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、損傷がある

注) 緑の項目の入力は劣化度入力にも連動します。水色の項目の入力は計算条件設定に必要です。 OK キャンセル

現地調査表 No.2-1 には、現地調査表 No.2 の基礎、金物、屋根、樋の項目を入力します。

水色の項目は、計算に影響します。

緑色の項目は、劣化度に関係します。

劣化度の入力は、ここで行います。

(後述の劣化度確認のパネルでは変更出来ません。)

基礎・床仕様を個別に入力する場合は、基礎・床仕様の入力欄にあるチェックボックスのチェックを外して下さい。

一般診断法では、一括での入力で構いませんが、必要がある場合は個別に入力してください。(チェックを外すと、入力欄の基礎・床仕様が選択できるようになります。)

金物ー接合部種類は調査で確認出来た種類を入力します。

床仕様は1階天井裏(2階床面)を優先して選択します。

屋根の葺き材は階ごとに主たるものを入力します。(リストより選ぶか、語句を入力します。)

現地調査表 No.2-2 には、外壁、露出した躯体、バルコニー・外廊下等の項目を入力します。

現地調査表 No.2-3 には、内壁(一般室、浴室)の項目を入力します。

仕様の種類が多く欄が足りないときは、欄内に複数列記します。

浴室が有る時は「有」を選択し、仕様・劣化を出して入力します。

調査概要

現地調査表 No.1-1 No.1-2 No.2-1 No.2-2 No.2-3 No.3-1 No.3-2 所見(1) 所見(2)

床面 床下
☒ 一般室
☒ 劣化無し ☐ 傾斜、過度の揺動、床鳴りがある
☐ 基礎の亀裂あり 部材に腐朽、蟻通、被害がある
☐ 劣化無し ☐ 傾斜、過度の揺動、床鳴りがある
☒ 劣化無し ☐ 床下目視不可(劣化無しで計算)

筋かい
 土塗り壁と筋かいの調査状況
☒ 土塗り壁なし
☐ 土塗り壁あり・筋かいあり
☐ 土塗り壁あり・筋かい目視調査不可・筋かい図面記載あり
☐ 土塗り壁あり・筋かいなし(設置不良・厚み15mm未満を含む)
☐ 筋かいなしと診断 筋かい欄の以下の記入は不要
☐ 土塗り壁あり・筋かい目視調査不可・筋かい図面記載なし
☐ 土塗り壁あり・筋かいなし(設置不良・厚み15mm未満を含む)

筋かいの位置の記載がある図面の有無 ☐ 有 ☒ 無 ← 無の場合は「図面の信頼性」の項目を印刷しない。

目視調査 ☐ 目視可能・筋かいあり ☐ 目視可能・筋かいなし ☒ 目視不可

図面の信頼性 ☒ 図面がある場合のみ ☐ 有 ☐ 無 ☐ 不明(筋かい目視不可・筋かい以外の情報一致)

設置状況 ☐ 全て良好 ☐ 一部不良 ☐ 全て不良 ☐ 不明 ☒ 目視不可

計算への反映
 想定(選んでからボタンを押す)
☐ 図面の通り入力
☐ 一部想定入力
☐ 筋かい入力なし
☐ 図面通り ☐ 一部想定 ☒ 全て想定 加筆・修正がある場合は編集して下さい。
 想定内容記入

建物の重さ
 区分 ☒ 軽い建物 ☐ 重い建物 ☐ 非常に重い建物 ← 屋根の重さだけでは無く、壁の重さでも考慮して決めます。

区分に影響を与えるもの ☐ 有 ☒ 無
 有-区分を変更して上げる
 有の場合は以下確認する
☐ 床面積1/2未満 ☐ 小屋裏物置等の下の居室天井高さ2.1m以上 ☐ 4つ全てに該当せず、かつ、3階建てとなる場合は誓約書の提出要
☐ 内窓高さ1.4m以下 ☐ 窓等が小屋裏物置等の床面積の1/20以下

注) 緑の項目の入力は劣化度入力にも連動します。水色の項目の入力は計算条件設定に必要です。 OK キャンセル

現地調査表 No.3-1 には、現地調査表 No.3 の床面床下、筋かい、建物の重さの項目を入力します。

筋かいの欄で計算への反映の入力は、想定を選択してから「想定内容記入」ボタンを押します。

建物の重さは、屋根や外壁等の入力とは連動しません。

必ずここで建物の重さを設定します。

小屋裏物置等を「有」にすると、4つの確認事項がチェック出来るようになります。基本的には、4つ全ての項目にチェックが必要です。

調査概要

現地調査表 No.1-1 No.1-2 No.2-1 No.2-2 No.2-3 No.3-1 No.3-2 所見(1) 所見(2)

その他
 調査項目にない事柄も自由に入れて下さい。 印刷は各欄4行まで

診断士メモ
 チェックシートの診断士メモに印刷します。
 印刷は10行まで

注) 緑の項目の入力は劣化度入力にも連動します。水色の項目の入力は計算条件設定に必要です。 OK キャンセル

現地調査表 No.3-2 には、その他の項目と診断士メモを入力します。

その他の項目には、調査項目には無いが、必要な項目がある場合に入力して下さい。

入力中に欄外にはみ出た行はカーソルキーで上下にスクロールさせると出てきます。

印刷される範囲は入力の頭からの行数です。(スクロールさせた範囲ではありません。)

診断士メモ欄の入力は、チェックシートの診断士メモ欄に印刷されます。特別な事情等で説明・報告等があるときに入力します。

調査概要

現地調査表 No.1-1 No.1-2 No.2-1 No.2-2 No.2-3 No.3-1 No.3-2 所見(1) 所見(2)

所見(1)
 データの入力後、条件をセットして「所見記入」ボタンを押すと所見が記入されます。必要に応じて編集して下さい。

地盤
☒ 所見記入
 印刷は3行まで

地形
 高さ1.5m未満だが、建物に影響のある擁壁やがけ
☐ 無し(平坦) ☐ 無し(ほぼ平坦) ☐ 擁壁あり ☐ がけあり
☐ 擁壁・がけの場所 ☒ 擁壁・がけは左欄で設定
☐ 敷地内 ☐ 敷地周辺
 所見記入
 印刷は3行まで

基礎
 基礎形式 ☒ 通常 ☐ 基礎形式が異なる場合 ☐ 資料・ヒヤリングより想定 ☐ 調査不可
 主な外周の基礎 無筋コンクリート布 有筋の半周所構梁
 その他の基礎 亀裂の有無
☐ 亀裂クラック ☐ 軽微なひび割れ(ヘアクラック) ☐ 亀裂無し
☐ グレーゾーンの木造住宅(要編集の場合あり)
 所見記入
 印刷は3行まで

「所見記入」ボタンを押すと書かれている内容は消えます。
 項目間で矛盾した選択のチェックは行っていません。
 「所見記入」ボタンを押して表示された内容を編集・加筆して下さい。
 同じ語句がダブルで表示される場合があります。ダブルで表示された場合は、必ず見直しにくいように編集して下さい。
 印刷した内容を提出前に必ず確認して下さい。(2カ項も同様。)

注) 緑の項目の入力は劣化度入力にも連動します。水色の項目の入力は計算条件設定に必要です。 OK キャンセル

所見(1)には、地盤、地形、基礎の所見を入力して下さい。この入力は、報告書の所見欄に記されます。

所見の入力は、**診断データの入力後**に行います。所見記入ボタンを左クリックすると、適当な所見が表示されます。必要に応じて、編集・追加します。

地盤—良い、普通、悪いに応じた所見が出ます。

地形—平坦 or がけありに加え、2つの選択欄に応じた所見が出ます。

基礎—各項目の選択・記入に応じて所見が出ます。

グレーゾーンの木造住宅の場合は☑して下さい。

調査概要

現地調査表 No.1-1 No.1-2 No.2-1 No.2-2 No.2-3 No.3-1 No.3-2 所見(1) 所見(2)

所見(2)
 構造上の弱点(2つ以上チェックすると行数オーバーの場合があります。オーバーした場合はその他の欄に入れて下さい。)
☐ 2階の隅柱直下に1階の柱なし ☐ 下屋の境目に1階の壁なし ☐ 増設及びリフォーム工事時の柱抜き取り
☐ 2階の突出(オーバーハング) ☐ 独立柱 ☐ その他

所見記入

印刷は5行まで

壁配置
 所見記入

印刷は3行まで

劣化度
 所見記入

印刷は7行まで

ボタンを押すと、「劣化あり」とした部位を列記しますので、劣化事象を簡潔に記述・編集して下さい。

その他
 事例
☐ 混構造(一部鉄骨) ☐ スキップフロア ☐ 天井高さ1.4m超の小屋裏物置 ☐ 上部構造評点≧1.0
☐ Qu>Qr(劣化) ☐ Qu>Qr(配置) ☐ 屋根に太陽熱温水器 ☐ 構造上複数種 ☐ 増設で複数種
☐ 仕口金物不良 ☐ 仕口金物不足 ☐ 仕口金物なし ☐ 火打ちなし ☐ 大きな吹抜け ☐ オーバーハング
☐ 独立柱 ☐ その他 ☐ 影響がある地下車庫 ☒ グレーゾーンの木造住宅(要編集の場合あり)

所見記入

印刷は7行まで

注) 緑の項目の入力は劣化度入力にも連動します。水色の項目の入力は計算条件設定に必要です。

OK キャンセル

所見(2)には、強さ、壁配置、劣化度、その他の所見を入力して下さい。

強さー壁耐力の値に応じた所見に加え、構造上の弱点でチェックした項目の所見が出ます。複数の弱点をチェックしたときは、印刷範囲に収まるように編集します。

壁配置ー偏心率による低減に応じた所見が出ます。

劣化度ー劣化を付けた項目を並べた所見が出ます。項目に応じた説明を編集で加えます。範囲に収まらない分は、その他の欄に移します。(コピー＆ペースト出来ます。)

グレーゾーンの木造住宅の場合は☒して下さい。

その他ー事例中の項目のチェックに応じた所見が出ます。

文の体裁を編集で整えます。

注) 所見欄の内容は、所見記入ボタンを押すことで入力データが反映されます。(自動的には反映されない。)

所見欄を記入した後に入力データを変更したときは、**矛盾していないかの確認**が必要です。

所見記入ボタンを押す前に記されていた内容は残りませんので、必要なときは、メモ帳などに複写した後にボタンを押して下さい。

3-3 劣化度

劣化度の確認

部位	材料、部材等	劣化事象	存在点数	劣化点数	
屋根 葺き材	金属板	変色色、さび、とび穴、すれ、めくれがある	☒ 2	☐ 2	
	瓦・スレート	割れ、欠け、すれ、欠落がある	☒ 2	☐ 2	
樋	樋・呼び樋	変色色、さび、割れ、すれ、欠落がある	☒ 2	☐ 2	
	堅樋	変色色、さび、割れ、すれ、欠落がある	☒ 2	☐ 2	
外壁 仕上げ	木製板、合板	水浸み痕、こげ、割れ、抜け、腐り、腐朽がある	☒ 4	☐ 4	
	窯業系サイディング	こげ、割れ、すれ、欠落、シール切れがある			
	金属サイディング	変色色、さび、とび穴、すれ、めくれ、目地突き、シール切れがある			
	モルタル	こげ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある			
露出した躯体		水浸み痕、こげ、腐朽、腐蝕、腐害がある	☐ 2		
バルコニー	手すり	水浸み痕、こげ、割れ、抜け、腐り、腐朽がある	☐ 1		
	壁	窯業系サイディング			こげ、割れ、すれ、欠落、シール切れがある
	金属サイディング	変色色、さび、とび穴、すれ、めくれ、目地突き、シール切れがある			
	外壁との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、縫み、シール切れ・剥離がある			
床排水		壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが悪い	☐ 1		
内 壁	一般室 内壁、窓下	水浸み痕、はがれ、亀裂、かじがある	☒ 2	☐ 2	
	浴室 タイル壁	目地の亀裂、タイルの割れがある	☒ 2	☐ 2	
	タイル以外	水浸み痕、変色、亀裂、かじ、腐朽、腐害がある	☒ 2	☐ 2	
床	一般室 床面	傾斜、過度の揺動、床鳴りがある	☒ 2	☐ 2	
	廊下	傾斜、過度の揺動、床鳴りがある	☒ 1	☐ 1	
	床下	基礎の亀裂や床下部材に腐朽、腐蝕、腐害がある	☒ 2	☐ 2	
合計			19	0	
劣化度による低減係数		D = 1 - (劣化点数 / 存在点数) =		1.00	

ここでは劣化度入力を変更出来ません。概要の方で変更して下さい。

OK キャンセル

操作パネルの[入力]ー[劣化度]で、「劣化度の入力」が開きます。

劣化度の各項目の確認を行います。

ここでは、確認のみで、変更は出来ません。

調査概要に同様の入力があるので、ここでは変更出来ない設定にしました。

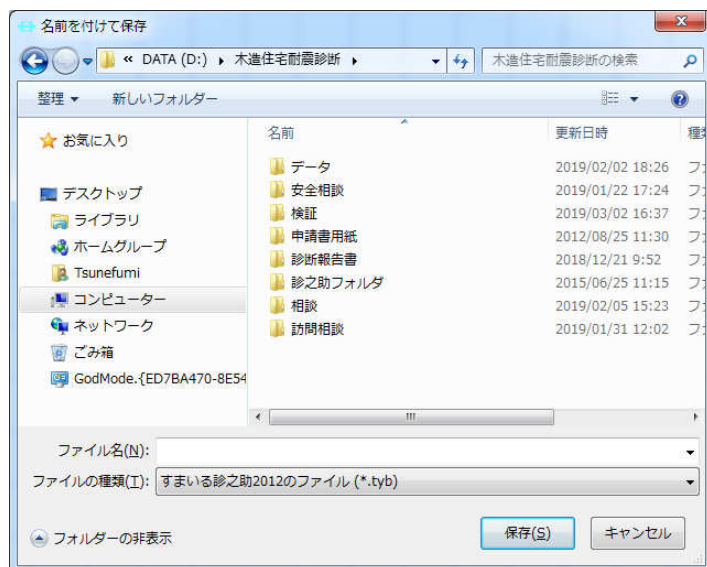
変更する場合は、調査概要の該当する項目を変更して下さい。

4. データファイル

4-1 保存・終了

入力したデータの保存、ソフトの終了を説明します。

[ファイル]－[保存]で、現在の入力データの保存を行います。



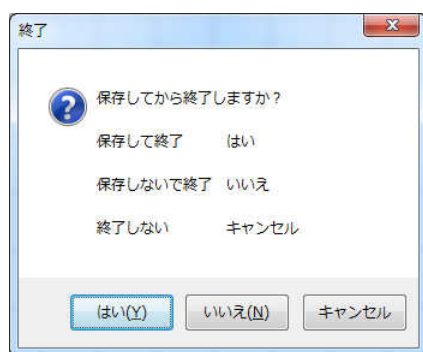
「名前を付けて保存」が開きます。

一般のソフトと同様に、適当なフォルダ、適当なファイル名を入力し、保存します。

既存と同じファイルを指示した場合は、上書保存になります。(既存のファイルは、同名の BAK ファイルになります。)

保存すると、画面上部のソフト名にファイル名が列記されます。(保存したか確認出来ます。)

終了する場合は、一般的なソフトと同様に、[ファイル]－[終了]及び右上の×ボタンで終了します。新規入力の場合やデータに変更がある場合は「終了」確認メッセージが表示されます。



「保存してから終了しますか？」の問いに答えて下さい。

はい ――― 現在のデータを保存し、終了します。

いいえ ――― 現在のデータを破棄し、終了します。

キャンセル ― 終了を取りやめ、続行します。

「はい」を選んだ場合、「名前を付けて保存」が開き、保存後に終了します。(「名前を付けて保存」で、キャンセルした場合は、終了しません。)

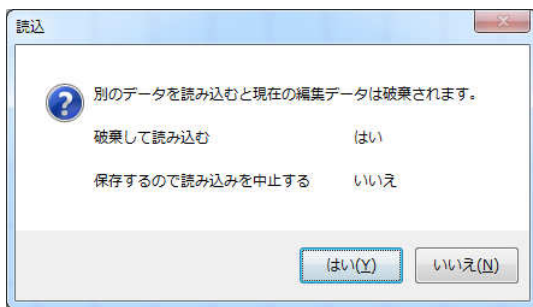
保存した後（上書を含む）及び既存データを読み込んだ後データの変更が無い場合は確認メッセージが出ずに終了します。

既存データを読み込んだ直後の「概要」画面でデータを変更した場合は確認メッセージが出ませんので注意して下さい。

4-2 開く

保存したデータを開くを説明します。

[ファイル]－[開く]で、保存された入力データを開きます。



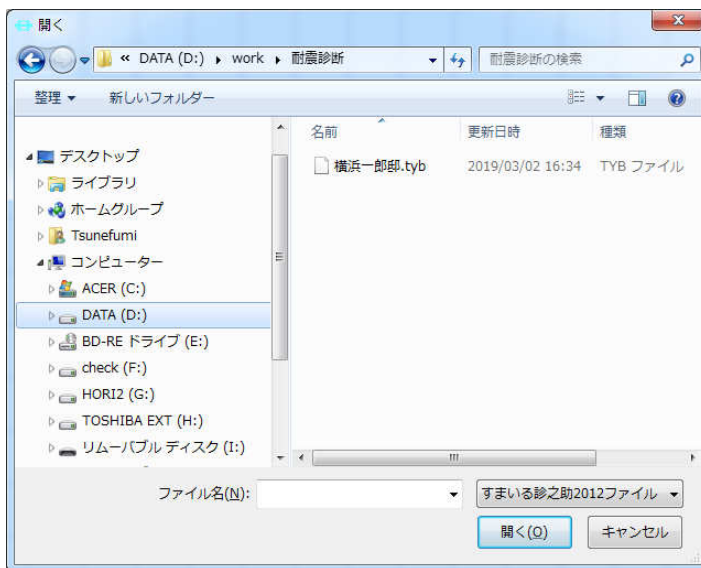
未保存の編集データがある場合は、「読込」確認メッセージが出ます。

はい ――― 破棄して読み込む

いいえ ――― 保存するので読み込みを中止する

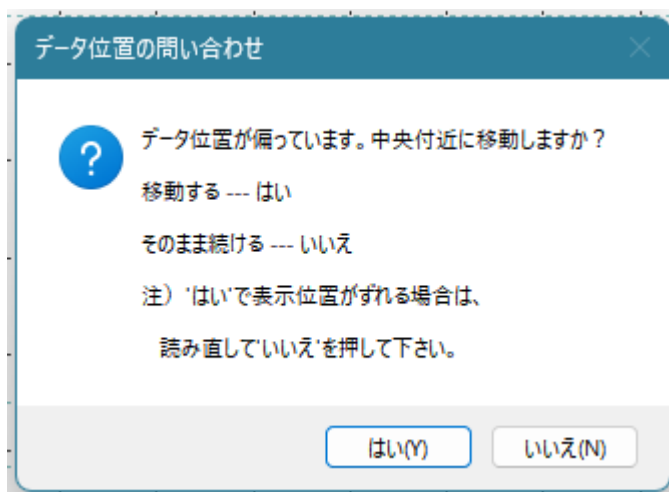
を選んで下さい。

未保存の編集データが無い場合は「ファイルを開く」が開きます。



一般のソフトと同様にファイルを選択します。

データファイルの拡張子は **tyb** です。上書保存で作成された **BAK** ファイルを開く場合は、ファイルの種類を **すべてのファイル** にして選択して下さい。



建物の表示位置が偏っている場合は変更できます。

通常は「はい」で移動させて下さい。

「はい」を選んで不具合が生じた場合は、読み直して「いいえ」を押して下さい。

(不具合が生じた時はソフトを再起動して下さい。)

5. プランの入力

調査概要の入力の後、プランを入力します。(プランが先でも構いません。)

入力に順序はなく、どれから入力されても構いません。

柱・壁・屋根床等・室名等・自由線 及び必要であれば 基礎・床仕様 を入力します。

本ソフトで、これら要素の**入力位置を指示出来る場所は、作業エリア内の通り芯(破線)の交点のみです。**

初期画面では、破線は縦横に 910mm 間隔で引かれています。(半間・3 尺間隔です。)

交点以外の場所に入力したい場合は、通り芯を追加(または変更)して指示したい場所に交点を作ります。

通り芯の追加は「5-5 通り芯の入力」を参照して下さい。

要素(柱・壁等)を入力すると、自動的に寸法線が描かれます。

5-1 柱の入力

操作パネルの[入力]―[柱]で柱の編集モードにします。

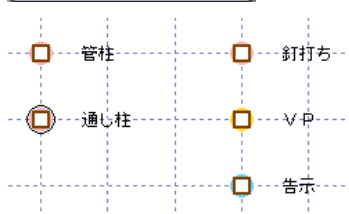


作業エリアの右上に、右図の柱種類選択パネルが現れます。

入力する柱の、柱の種類・金物仕様を選びます。

作業エリア内の破線の交点をマウスで左クリックします。

柱の種類に応じて、入力した位置に柱記号が表示されます。



柱の消去は、入力済みの柱をクリックします。(左右どちらでも)

通し柱の場合は、他階も影響されますので注意して下さい。

通し柱を消去したときは、他階の同位置の柱は管柱になります。

金物仕様は、接合部Ⅰ：告示、接合部Ⅱ：VP、接合部ⅢorⅣ：釘打ち で表示しています。

5-2 壁の入力

操作パネルの[入力]―[壁(柱)]で壁の編集モードにします。



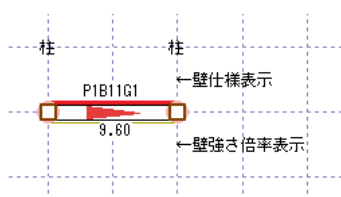
壁種類選択パネルが現れます。

新規入力の際は無開口壁で建物全体を入力し、次に「壁の変更」で壁の種類、壁仕様等を変更する方が効率的です。

壁の種類・仕様を設定してから入力する場合は、耐力要素の表示を ON にします。壁仕様は後で修正・変更出来ます。



ここで設定すると、耐力要素の表示を OFF にして表示を元に戻しても、入力する壁に影響しますので注意して下さい。



壁の入力は、破線の交点を 2 箇所マウスで左クリックします。

1 点目を左クリックし、マウスを動かすと、交点ごとに仮線が表示されます。(マウスのドラッグ操作ではないので注意してください。)

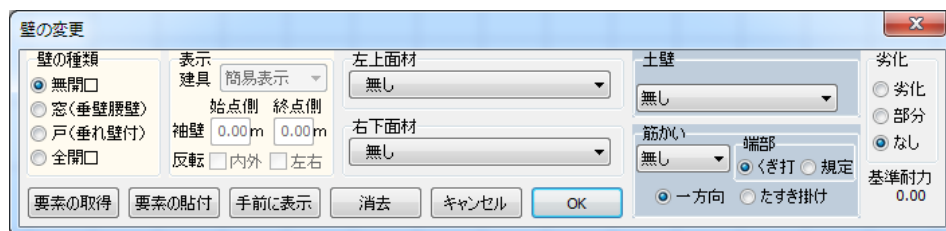
2 点目を左クリックすると、壁の種類に応じて、壁記号が表示されます。

2 点目で同じ交点を左クリックすると柱の入力になります。

1 点目の入力後、右クリックすると入力がキャンセルされます。

壁の入力時には、操作パネルの[画面表示]－[壁要素]・[壁倍率]がチェックされていると、壁仕様及び壁強さ倍率が表示されます。必要に応じて、選択してください。

壁を変更・消去する場合は、マウスを壁に近づけ反転表示された状態で右クリックするか、壁両端2点を左クリックで選択します。選択されると、「壁の変更」が開きます。



ここで、消去・変更を行います。消去の場合は、壁の消去ボタンを押します。

変更の場合は、壁の種類・仕様を選択し、

OKボタンを押します。

各ボタンの説明

手前に表示—— 選択した壁の表示順を最後にします。(他の壁で隠れないようにします。)

壁の消去—— 選択した壁を消去します。

要素の取得—— 選択した壁の種類・仕様を、上部の壁選択パネルにコピーします。

要素の貼付—— 壁選択パネルの壁の種類・仕様を「壁の変更」にコピーします。

キャンセル—— 消去・変更の操作を取止めます。

OK—— 選択した壁を、「壁の変更」の壁の種類・仕様に変更します。

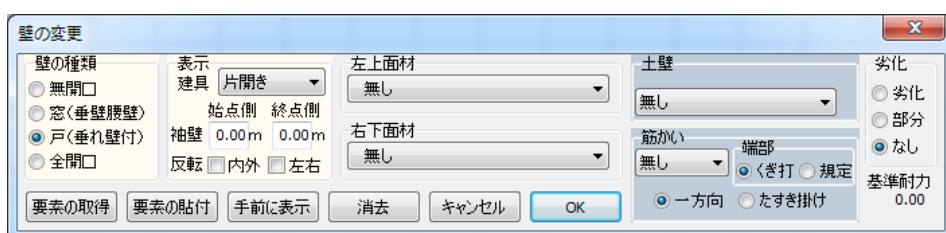
壁仕様の心材が片筋カイの場合は、柱頭・柱脚の区別があります。壁を選択する際の **1点目が柱脚側**、**2点目が柱頭側**になります。(新規の場合も同様です。) 一般診断法では片筋カイの方向を考慮しませんので、どちらに入力されても、計算には影響しません。他ソフトにある柱のN値計算の為に区別できる入力になっています。

(プランを見て、筋カイの方向バランスを検討し易くする為でもあります。)

壁は、斜め方向にも同様に入力出来ます。この場合でも、指定できる壁の両端は破線の交点のみです。

壁の種類をマド・戸にすると表示を選ぶことが出来ます。計算上は簡易表示と変わりませんが、プランが見やすくなります。(文字等が重なる場所等は簡易表示と使い分けて下さい。) 診断法では、両端に柱が無い壁は耐力無しになります。両端に柱が無い無開口壁はスマートでないので、使用箇所を少なくするために機能追加しました。

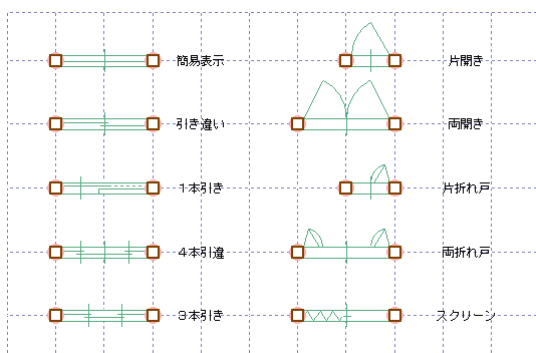
表示の種類は、簡易表示、引き違い、1本引き、4本引違、3本引き、片開き、両開き、片折れ戸、両折れ戸、



スクリーンです。これに「左右」及び「内外」の選択で4通りの表示が選べます。袖壁の「始点側」及び「終点側」に数値(単位はm)を入れると袖壁が表現出来ます。

慣れるまでは、表示と設定を繰り返して下さい。

マド・戸の表示種類

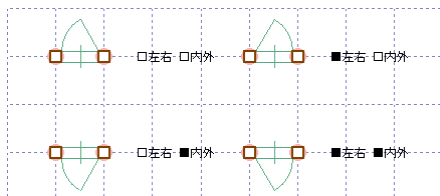


マドと戸の違いは、色と中心線です。

一般診断法(2004年版)では、有開口壁の耐力は一律ですので、計算には影響されません。然るに、2012年改訂版では、マドと戸で異なる耐力評価になります。

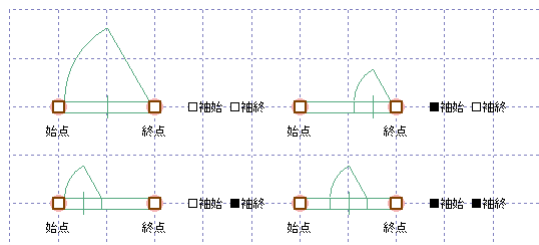
袖壁部分を含めて有開口壁と評価する場合は、後記の袖付表示の様に入力して下さい。(分けて入力すると耐力無しになります。)

反転表示



反転表示の種類は左記の4通りです。他の表示種類でも同様に反転します。左右対称の表示種類では左右の反転は同じです。(袖付き表示は影響されません。)

袖付き表示

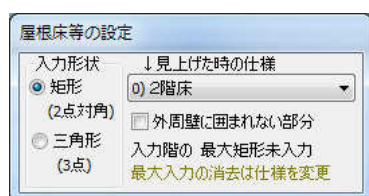


袖付き表示は左記の様に、始点側と終点側に数値（単位はm）を入力することで設定します。これ以外の表示は用意していませんので近い表示で代用させるか、簡易表示をお使い下さい。

有開口壁として耐力を評価する場合は壁の入力を分けずに入力して下さい。

5-3 屋根床等の入力

操作パネルの[入力]－[屋根床等]で屋根床等の編集モードにします。



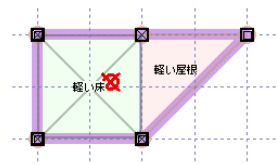
「屋根床等の設定」パネルが現れます。

種類・仕様を選び、位置を指示して入力します。

屋根床等は、矩形及び三角形の入力が出来ます。(台形等の入力は、矩形・三角形に分割して下さい。)

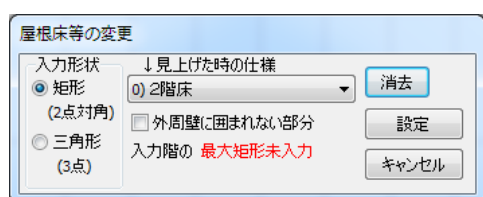
屋根床等の仕様は、入力する階の仕様ではなく、その上階の仕様になります。(←注意！！)

例えば、1階の入力時は、2階の在る範囲を”2階床”で入力し、下屋の範囲を”屋根”で入力します。



矩形の入力には対角の2点を、三角形の入力には頂点の3点を、マウスの左クリックで指示します。

屋根床等の入力時には、既入力の屋根床等が表示されます。表示は仕様及び重さです。



屋根床等を消去または変更する場合は、マウスを既入力の屋根床等の範囲内に移動し反転表示された状態で右クリックするか、既入力の屋根床等の対角2点(三角形の場合は3頂点)を再度指示します。「屋根床等の変更」パネルが表示されますので、商況する場合は消去ボタンを押し、

変更する場合は仕様を変更し設定ボタンを押します。(入力形状は変更出来ませんので、消去し、入力し直して下さい。)

屋根床等には、他に”吹抜部”・”跳出バルコニー”・”小屋裏収納”が選べます。必要に応じて選択して下さい。

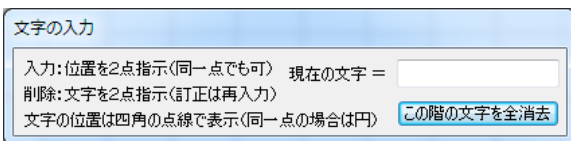
(重さの入力は重心の算出用です。必要耐力の算出には影響されません。)

また、**最大矩形**を選ぶ事も出来ます。本ソフトの現バージョンでは、形状割り増し係数を求めるに当たり、**最大矩形**の入力が無い場合は、短辺長さとして建物全体を見ています。小さい凸部がある場合やL型の建物の場合には対応出来ません。この様な場合には、**最大矩形**の入力で短辺長さを必ず指定して下さい。**最大矩形**の入力は、階当り一つです。(一般診断法で必要耐力法の場合、2階建て建物の場合は2階のみ最大矩形の入力が必要です。)

5-4 室名等の入力

操作パネルの[入力]—[室名等]で室名等の編集モードにします。計算上には影響されません。

また、室名に限らず、自由な文字を自由な場所に入力出来ます。(現バージョンでは、階当り30箇所までです。)



文字の入力

入力:位置を2点指示(同一点でも可) 現在の文字 =

削除:文字を2点指示(訂正は再入力)

文字の位置は四角の点線で表示(同一点の場合は円)

室名等選択パネルが現れます。

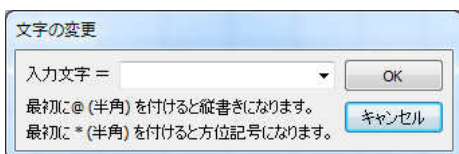
ここで文字を入れると、「室名等入力」のデフォルト値になります。

入力する位置をマウスで2点指示します。

ここで指示出来る点も破線の交点になります。

室名等の入力では、同じ点を2回指示出来ます。同じ点を指示した場合はその点が文字の中心に、異なる点を指示した場合は2点の midpoint が文字の中心になります。

入力位置を指示すると、「室名等の入力」が開きます。



文字の変更

入力文字 =

最初に@ (半角) を付けると縦書きになります。

最初に* (半角) を付けると方位記号になります。

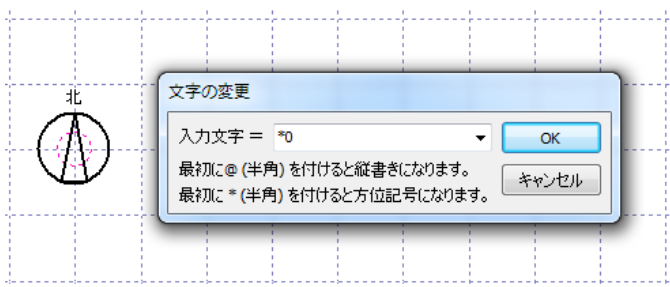
室名等に文字を入れます。リストの中から選ぶ事も出来ます。

最初の1文字目に”@ (半角)” があると縦書きになります。

室名等の入力時は、指定した2点を対角とする矩形が表示されます。

(同一点の場合を除く。)

室名等の消去は、マウスを既入力の屋根床等の文字に重ね反転表示された状態で右クリックするか、既入力の室名等を再度2点指示します(同一点の場合も2回指示)。消去された室名等の文字は、室名等選択パネルにコピーされます。(次の入力のデフォルト値になります。)



方位記号の入力は、室名等の入力で行います。

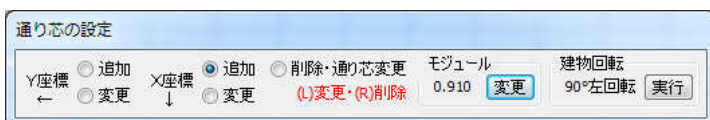
室名等に「*0」の様に1文字目を”* (半角)” にし半角数字を続けます。北の方向が画面の上方の時は数字を0にし、左回り(反時計回り)の角度で設定します。

5-5 通り芯の入力

初期状態では、入力指示出来る点として、縦横に910mmピッチの破線が設定されています。

必要に応じて、破線の追加・間隔の寸法変更・消去・通り芯の設定変更を行います。

操作パネルの[入力]—[通り芯]で通り芯の編集モードにします。通り芯選択パネルが現れます。



通り芯の設定

Y座標 ☐ 追加 ☐ 変更 ☒ 追加 ☐ 変更 ☐ 削除・通り芯変更

X座標 ☐ 追加 ☐ 変更 ☐ 削除・通り芯変更

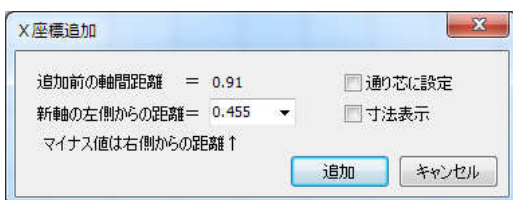
モジュール 0.910

建物回転 90°左回転

(L)変更・(R)削除

作業したい項目を選びます。

X座標とは、縦方向の破線を追加・変更したい場合、Y座標とは、横方向の破線を追加・変更したい場合、です。



X座標追加

追加前の軸間距離 = 0.91 ☐ 通り芯に設定

新軸の左側からの距離 = 0.455 ☐ 寸法表示

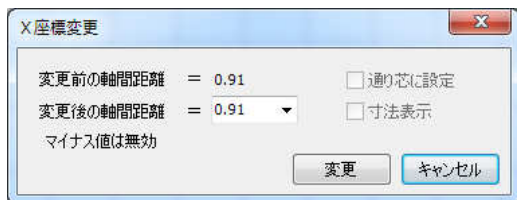
マイナス値は右側からの距離 ↑

X座標追加で、破線の間を左クリックすると、「X座標追加」が開きます。左側からの距離を入力します。(右側からの距離で指示する場合は負数で入力。)

追加する破線を通り芯にしたい場合は、通り芯に設定をチェックします。

寸法表示を行わない場合は、寸法表示をチェックします。追加ボタンを押して、破線を追加します。

Y座標追加も同様です。



X座標寸法変更で、破線の間を左クリックすると、「X座標変更」が開きます。

破線間の新しい寸法を入力します。

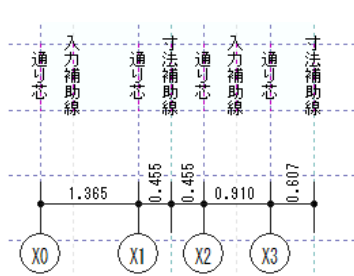
変更ボタンを押して、破線の間隔を変更します。

Y座標寸法変更も同様です。

削除・通り芯変更を選んだ場合は、左クリックと右クリックを使い分けます。

破線を右クリックすると、破線を消去出来ます。この時、柱・壁などの位置が指定されている交点の破線は消去出来ません。先に、これらのデータを消去し、破線を消去します。

破線を左クリックした場合は、破線の通り芯設定が変わります。通り芯設定は次の3通りです。



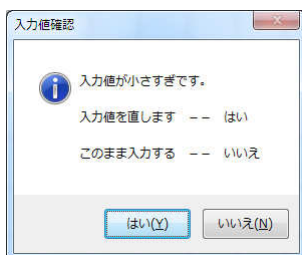
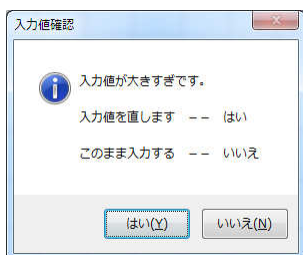
通り芯 — 通り芯に設定。データがある範囲では通り芯になります。

寸法補助線 — 寸法は表示されますが、通り芯にはなりません。

入力補助線 — 入力するのみの設定、寸法は表示されません。

左クリックの度に順に変わります。

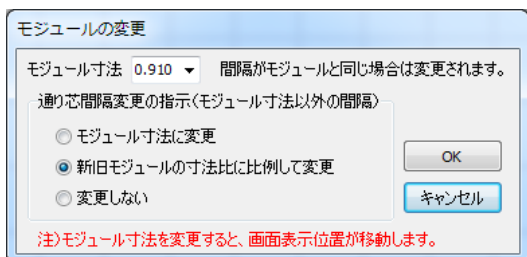
なお、通り芯設定は表示上の変更であり、計算には影響しません。



注) 通り芯間の寸法は 0.1m~4.0m に制限しています。

左記の確認画面が出た場合は、はい(Y)を選択して変更をキャンセルして下さい。何らかの理由で、範囲外の数値に変更する場合は、いいえ(N)を選択すると変更されますが、交点を指示する際に意図しない方を選択する場合があります。起こりやすくなりますので、避けるようにして下さい。何らかの具合で

通り芯間隔の値が0（ゼロ）或いはマイナスになった場合はソフトの動作が不安定になります。その場合は入力したデータが使用不能になる場合があります。建物が複雑で、通り芯の設定が細かい場合等は、途中で保存して進めて下さい。（エラーが出た時点でデータが復旧出来なくなります。）



モジュールの変更ボタンを押すと「モジュールの変更」が出ます。

変更したいモジュール寸法を入力し、モジュール寸法以外の通り芯間隔変更を指示します。

入力された建物の向きを一括で変えたい場合は、建物回転の 90° 左回転実行ボタンを押します。反対向きにしたい場合はボタンを2回、90° 右回転させたい場合は3回ボタンを押して下さい。

6. 報告書・計算書・現地調査表の表示・印刷

報告書・計算書・現地調査表の表示・印刷について説明します。

6-1 表示

メインメニューの[報告書]で「報告書」が開きます。

「報告書」は、11項目あります。上部のタブで表示する項目を切り替えます。認証をしめないと、報告書・現地調査表・チェックシートの表示は出来ません。(タブも現れません。) 各項目は、印刷する場合のイメージを表示しています。表示倍率、ページ幅、ページ全体等で見易い表示に調整して下さい。(画面の解像度とプリンタの解像度との違いで、文字の配置・バランスが多少ずれます。)

右側に表示される「[1 / 3]」等の表示は、表示ページ／ページ枚数です。「[1 / 1]」の時は次のページはありませんが、「[1 / 2]」の場合は次のページがありますので、「↓」ボタンで次のページを表示させて下さい。「↑」ボタンでは前のページに戻ります。

印刷イメージが表示されますので、各ページ及び各項目をチェックし、問題・訂正が無ければ、印刷に進みます。

6-2 印刷

「報告書」の右下にある印刷ボタンを押すと、「報告書・計算書・現地調査表の印刷」が開きます。

印刷するページをチェックし、印刷ボタンを押します。最初の印刷時及び印刷設定変更ボタンを押すと、「プリンターの設定」が開きます。

プロパティボタンを押して、用紙等の設定をします。

設定は各プリンタの説明書をお読み下さい。

印刷する用紙はA4縦が標準です。用紙に応じて拡大縮小されますが、報告書を作成する場合はA4縦に設定します。

プランニングシート等で、文字が小さい場合などは大き目の用紙に印刷すると見易くなります。(報告書等の提出はA4縦に限りません。) 印刷された用紙の上部に、物件名・診断士・印刷日時等のヘッダーが印刷されます。

プリンター名に PDF を作成するドライバーを選択します。「印刷」の後は、PDF ドライバーの説明書に従ってください。

7. 連絡先

本ソフトの使用に際し、問題があった場合は、下記まで連絡して下さい。

操作方法等のご質問は、E メールでお願いします。

なるべく早くお答えしますが、即答できない場合はご容赦下さい。

また、バグ報告等の緊急の場合を除き、E メール以外での問い合わせ・ご質問はご遠慮下さい。

横浜市鶴見区生麦 1－15－9

(株)堀池工務店一級建築士事務所

堀池 恒史（ほりいけ つねふみ）

E メールアドレス：horiike@pb.highway.ne.jp

Eメールの件名には、必ず「すまいる診之助」を入れて下さい。

（件名で内容が分らない場合には、迷惑メールとして消去することがあります。）

8. 最後に

本ソフトは、横浜市木造住宅耐震診断士派遣事業の支援の為に作られました。

本ソフトを、有料の耐震診断に用いることはご遠慮下さい。（派遣事業でも、営業活動は禁止です。）

印刷される「報告書」「現地調査表」を横浜市木造住宅耐震診断士派遣事業以外で用いる事は厳禁です。

本ソフトを、解析・改造することは禁止出来ませんが、それを公表・公開する行為はお止め下さい。

本ソフトの使用条件は、ヘルプファイル内に記されています。使用条件内で使われることをお願いします。

本ソフトが、診断士の皆様のお役に立てれば幸いです。 堀池 恒史